

修士課程を修了して

数学と私

川口澄恵

2017年3月修士課程修了

私は平成23年4月に京都大学理学部に入学した。入学したときは学科ごとに分かれておらず理学部としての入学だったが、当時から数学科を希望することは決めていた。高校生とき、数学の問題が解けることが楽しいと思ったところから始まり、自分で考えた関数がどのようなものなのかを考えたり、先生に ϵ - δ 論法を教えていただき、大学でも数学を学びたいと思ったからである。

大学1年の前期の数学の授業は微積分学と線形代数学であった。微積分学は國府先生が見てくださり、 ϵ - δ 論法は慣れていたこともあって、初回の授業を受けた感想は「理解できるし楽しい」であった。一方、線形代数学は山崎先生が見てくださっていたのだが、「これが大学の授業か…！」と驚いた。その後大学の環境に慣れると、(今となっては後悔しているのだが、)出席を取られる授業といくつかの授業以外出ずに塾講師のアルバイトの時間以外ほぼ引きこもり状態になってしまった。

研究内容を選ぶ上でとても大きな影響を受けたのは、2回生後期に受けた非線形数学セミナーであった。微積の授業でお世話になった國府先生が少人数セミナーをすると聞き受けることにしたのだが、やはりセミナーは授業とは違い、受け身では参加できないため予習に時間を要し少しは思考力が身についたように感じた。先生や共にセミナーを受けていた友人は本当に頭が良い上に人格も素晴らしく、私にわからないことがあれば優しくわかりやすい説明をしてくださった。頭を使うことは楽しく、また人格的に素晴らしい人からもっと学びたいと思った。

3回生のときのコアの授業で演習を考えていて4回生の講究は代数にしようかと思っていたのだが、結局國府先生に学びたいと思い、応用数学に進んだ。洋書を読むのは初めてでなかなか進まなかったのだが、先生と1対1でセミナーをしていただけたので、自分のペースで学ぶことができた。このとき、大学院に進みたいと思っていたが就職の話もあり悩んだ末先生に相談して大学院に進むことに決め、なんとか院試にも合格し、充実した生活が始まった。

大学院生になって大学生の頃から大きく変わったのは、勉強部屋が与えられたことである。同じ部屋のメンバーにはすごく恵まれ、勉強もするし遊びもする



M1のときのクリスマス会

毎日で、引きこもりがちだった大学生時代からは想像できないほど毎日大学に来た。勉強は、先生に見ていただく院生セミナー以外に、大学で学んで来たはずの内容を復習することを目的とした復習セミナーをして、環論やフーリエ変換を学んだ。遊びは、クリスマス会や土砂降りの中の野球大会や事務の方を交えた女子会やサイクリングをしていた。(遊ぶことの方が中心になってしまっていたかもしれないが) 学ぶことも遊ぶこともできる環境は、本当に幸せだったと感じている。

大学院で得たものの中でもっとも大きかったのは友人だと思う。現在私は中学生の頃から夢見ていた教員をしている。友人らは同じく教員になった人も研究を続けている人も企業に就職した人もいる。教員になった友人と数学や教育の話をしてちょっとずつ成長しているように感じるし、私自身は憧れていた「数学のできる先生」には程遠いが、数年後に研究を続けている友人や企業に就職した友人らを学校に招いて最先端の数学や社会で使われている数学を生徒に触れさせてあげられると思っている。数学に面白さを感じられなかったこともあるが、数学のおかげで学ぶことの楽しさを感じられたし、良き友人にも出会えたし、前向きに教員をできていると思う。数学教師として謙虚に学びながら、生徒に数学の面白さを伝えていきたい。

数学教室の先生方や事務の方には大変お世話になりました。ありがとうございました。数年後に生徒をお送りする予定ですので、よろしく申し上げます(笑)



卒業旅行 (大宰府)